



モグラは太陽の光にあたると死ぬの

モグラはひなたぼっこもする

モグラは、体を温めるために、ひなたぼっこをするので、太陽の光にあたってても死にません。モグラは、土の中で重労働のトンネルほりをしているため、おなかもよくへりません。モグラの1日は、1～2時間えさを探してトンネルをほり、おなかがいっぱいになったら3～4時間ねむり、また、えさを探して土をほるといくり返します。食べるために、いつもあなほりをしています。モグラは1日に、自分の体重の半分ぐらいの量のミミズやコオロギ、幼虫などを食べます。モグラを飼うと、えさ不足で死なせることが多いようです。

モグラは、水分がたっぷりないと生きていけない

モグラは、土ほりをしながら、たくさん汗をかきます。そのため、水気もたくさん必要で、水をたっぷりあたえないと、死んでしまいます。ふつう、土の中は、湿り気がじゅうぶんあり、トンネルをほっても湿った土ならくずれません。かわいた砂を入れた中でモグラを飼うと、砂がくずれてトンネルがほれませんし、砂が鼻につまって、死ぬことが多くなります。

モグラは、ミミズを追いかけて、夜地上に出てくることがあり、このときネコなどにおそわれ、死体が朝、発見されたりすることがあったため、「モグラは太陽の光にあたって死ぬ」などと、いわれたのではないのでしょうか

モグラは、目が見えず、実験してみると、明るくても暗くても動き方は変わりません。モグラは、においや音でえさを探し、体の毛が、まわりの土にさわっていることで安心し、土の温度の変化で昼と夜、季節などを感じとっています。（監修・今泉 忠明）

